

本の ひろば

[月刊] キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2015年4月1日発行（毎月一回発行）第687号

ISSN 0286-7001

出会い・本・人

基督教教育学者コメニウス 吉岡良昌

本・批評と紹介

W.シュバルン 編/湯川郁子 訳

ルターの言葉 石居基夫

雨宮栄一 著

フリードリヒ・ユストゥス・ペーレルス

南 吉衛

ジェラルディン・マコックラン 著/沢 知恵 訳/池谷陽子 絵

エッセイの木 望月麻生

フェルディナント・ハーン 著/大貫 隆、田中健三 訳

新約聖書神学Ⅱ 上 木原柱二

田中 司、高橋恵一郎、高橋貞二郎 著

聖書と子どもたち 田中かおる

日本カルヴィニスト協会 編

カルヴァンとカルヴェニズム 出村 彰

寺園喜基 訳

カールバルト=滝沢克己往復書簡

福嶋 揚

既刊案内

書店案内

4 APRIL
2015



イエス・キリストの信仰

3月20日

ガラテヤ3・1-4・11の物語下部構造
リチャード・ヘイズ著／河野克也訳

人が救われるのはイエス・キリストへの信仰によるのか、それともイエス・キリストが信ずる信仰によるのか？パウロの「ピステイス・イエスウ・クリストウ」は主格的属格なのか対格的属格なのか。長きに渡る論争に鮮やかな解決を提示した古典的論文の待望の邦訳。著者は4月来日。

◆A5判・本体6500円

原罪論

ジョナサン・エドワーズ選集3

ジョナサン・エドワーズ著／森本あんり監修・大久保正健訳

3月20日

「アメリカ最初の神学者」とも呼ばれる18世紀の会衆派牧師エドワーズは、独創的な著述によって巨大な影響を残した。その初の邦訳選集全7巻の第1回配本。アメリカ精神の源流を理解するためにも必読の文獻。

◆A5判・本体7000円

市民K、教会を出る

韓国プロテスタントの成功と失敗、欲望の社会学

金鎮虎著／香山洋人訳

韓国キリスト教会の今！



話題騒然となった自己省察の書。韓国社会にとってプロテスタンティズムとは何であったかを韓国現代史を通して徹底検証。

◆A5変・本体2400円

カール・バルトの教会論

佐藤司郎著 旅する神の民

◆A5判・本体5500円

バルト神学における教会論の展開を初期から後期に至るまで綿密に追跡し、「主キリストのもとにある兄弟姉妹の共同体」としての教会像を解明した初の貴重な労作。

パパやママががんになったら



藤井あけみ著

チャイルド・ライフの出会いから

難病と闘う子どもの心のケアを専門とするチャイルド・ライフ・スペシャリストの著者が、親が難病を抱えたときの子どもとの接し方、また家族のあり方を、現場での様々な出会いを通じて温かな視線から考える。現代に必要な「いのちの教育」のあり方に対する大切な提言。

◆B6変型・本体1500円

ヤコブ・ペトロ・ヨハネ・ユダの手紙

宮平望著 私訳と解説

◆A5判・本体2500円

好評の注解シリーズ第11作。1節ごとにメッセージ豊かな丁寧な注解を施す。



出会う・本・人

基督教教育学者コメニウス——吉岡良昌

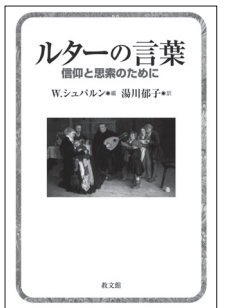
私は、中学一年時の担任の先生の強い影響を受けて、自我の覚醒に目覚め、人間らしい人間になるための終わりのない旅路を出発しました。しかし、精進努力だけでは人間形成は不可能であることを知り、一九歳の時に教会の門を叩きました。そして、その後の歩みは、基督教信仰に基づく教員になる夢を実現させることでした。教育と基督教信仰との理論的探求を求めて国際基督教大学大学院で基督教教育哲学を専攻しました。エミール・ブルンナーがすでに去っておられた時期でしたが、彼が推奨していた基督教教育者ベスタロッチの観点から修士論文をまとめました。その後の神戸改革派神学校の神学論文は、「神の像」論でしたが、人間と神との関係を実体的に捉えることに満足できず、関係論的に捉える方向に目覚める時期でもありました。そして、教会とキリスト教主義学校に奉職した間の根源的課題は、人間の原罪と教育の可能性をどのように捉えるか、という課題でした。この課題について一つの解決策を与えてくれたのが、ヨハン・アモス・コメニウスの『大教授学』でした。そこには、聖書の創造論に基づく神学と教育学との総合的体系をもたらす基督教教育哲学が含まれています。鈴木秀勇教授を筆頭に日本のコメニウス研究は世界的レベルに達していると思いますが、神学的思惟を欠いた教育

学説には不満でした。コメニウスの聖書の創造論に立脚した神と人間と世界とを有機的に捉えた基督教教育哲学に魅了されました。四〇歳から今日に至るまで二七年間、東洋英和の保育者養成に関わる教育実践に携わっています。現在所属の東洋英和女学院大学「保育子ども学科」の前身である上田市保母傳習所時代の所長デウォルフ宣教師やドレーク宣教師は英語でフレーベルやルソウの幼児教育思想を講義していました。そこで、私は、東洋英和の建学の精神である「敬神・奉仕」の教育理念をコメニウスまで遡る教育理念と確信して、コメニウス・ルソー、ベスタロッチ、フレーベル、デューイにつながる存在論的教育学の系譜を講義し続けてきました。東洋英和は多くの基督教教育の先輩たちによって支えられてきた学校です。岩村清四郎・キュックリヒ・岡部彌太郎・平岩保・水野誠・小林公一・今橋朗・小林政吉・津守真・松居直・松川成夫・南部泰孝・三浦正・榎田盤・下山田裕彦・ジュティーン・深町正信等の名前が記録されています。この戦列の一員に加えられた光栄を汚さないようにと自戒しています。

(よしおか・よしまさ 東洋英和女学院大学教授)

神のみことばに生きた信仰者
W・シユパルン編
湯川郁子訳

ルターの言葉
信仰と思索のために



石居基夫

ルターの宗教改革から五百年の記念の年が二〇一七年に迫り、ルター自身の著作、またルターに関する研究書も出版、再版が重なってきているように思われる。折しも、昨年カトリック教会の第二バチカン公会議におけるエキュメニズム教令五〇周年を記念して、カトリックと聖公会、ルーテル教会合同の礼拝が行われたが、一方的な正統の主張や教派的分裂を絶対視することの愚かさと思わされる。イエス・キリストの福音を分かち合う時、人間の言葉はいつでも舌足らずに違いない。それでも、人はその生きる歴史的・文化的状況の中で、福音の真理を言葉にし、神の恵みと救いの出来事を確認してきた。ルターの宗教改革とその神学的営為も、そうした意味で歴史の中にその意義を今一度問う時でもあろう。

本書は、神学論文に限らず、聖書講解や説教、卓上語録、あるいは手紙などから「ルター言葉」を幅広く拾い上げ、状況の中で生きられた信仰の言葉を浮かび上がらせる。一切の解説を入れずに、ルターの原典引用のみで編集された本書は、おそらく、初めてルターを学ぼうとする方々への入門書というより

も、ある程度の予備知識を持った上で読まれる方がよい。ルターがその時々、どのような状況の中に生きていたのか、その確認の中でこそ、その「言葉」の意味は見いだされる。編者のヴァルター・シユパルンは、既に第一線からは退いていく。けれども、ここ何十年かの間のルター研究において、特に啓蒙時代以降の近代思想や哲学との関係の中で、歴史神学、組織神学両方の視点をもって貢献をされた第一人者だ。ルターの言葉を選び、構成して紹介する仕方そのものの中に、シユパルンの神学的関心も現われているように思う。

「信仰」「みことば」「経験」「自由」「心」という五つの概念が取り上げられ、章立ての項目として全体の構成が整えられている。それぞれの言葉に、ルター自身の信仰の闘いと豊かな神学思想が結晶している。ルター以後の神学は、皆それぞれにこれらルター言葉に自らの神学の営みのよりどころを求めたかもしれない。

たとえば、「信仰」の項目では、「心の信頼と信仰のみが、神と偶像、どちらをもつくり出す。信仰と信頼が正しいなら、あ

なたの神も正しい。逆に信仰が偽りであり正しくないところは、また、正しい神もおられない」(二五頁)とあるが、「みことば」の項目には、逆に「私たちの信仰は、それが神のことばであって、砂や苔や、人の妄想や行いではないという根拠をもつべきである」(六二頁)とある。人間の信仰に神学の基礎をおくような言い方と、神のことばにこそ根拠を見る視点とは、ちょうどシユライアマッハーの自由主義神学とバルトの神の言葉の神学の対比を思わせるのだが、いずれもルター言葉なのだ。

あるところには正統主義につながる言葉があるし、敬虔主義的な言葉も見いだす。あるいはブルトマンの実存主義神学などの言説と相通じるものもある。ルター自身は中世末に生きた人であつても、現代に至るまで大きな影響を与えてきたし、またそれぞれの神学者は自分の神学的な文脈の中にルターを引き寄せて読み込むことがあつたということでもある。いずれにし

ても、シユパルンは自らの研究の中で確認してきた「ルター言葉」の豊かさを本書で余すことなく紹介してくれる。それだけに、私たちはルター言葉の状況を引き寄せたのではなく、ルターが何と格闘していたか、その格闘そのものに迫るべきなのではないか。シユパルンによれば、集められたルター言葉には、ルター自身の「告白」があり、「神学的思索」があり、「信仰が生活へと導人される」ための格闘と指針があり、また「感謝と祈り」が表されているという。神のみことばに生きた一人の信仰者の言葉にふれることで、私たち自身の格闘と福音を伝えるための言葉を鍛えていきたいものだ。

(四六判・二六〇頁・本体二〇〇円＋税・教文館)

井上洋治著作選集5《全5巻》
シリーズ刊行開始
遺稿集「南無アツバ」の祈り



第1回
記本

遠藤周作と志をともし、日本人の心に届くよう福音を伝えるため模索し続けたカトリック司祭井上洋治。その思索の末に辿り着いた、最晩年のメッセージ。

A5判・248頁・2700円

渡辺和子
ノートルダム清心学園理事長
佐藤優
作家・元外務省主任分析官
木崎さと子
作家

お薦めします

シリーズ続刊

- 1 日本とイエスの顔 (2015年7月刊行)
- 2 余白の旅—思索のあと (2015年9月刊行)
- 3 キリストを運んだ男—パウロの生涯 (2015年11月刊行)
- 4 わが師イエスの生涯 (2015年5月刊行)

マタイ福音書を読もう3
その名はイエス・キリスト

松本敏之

全3巻完結!

わかりやすくマタイ福音書の通説を導く3巻シリーズ最終巻。19~28章の、イエスのエルサレムへの旅から復活までを収録。



最終回
記本

四六判・218頁・1,728円

日本キリスト教団出版局

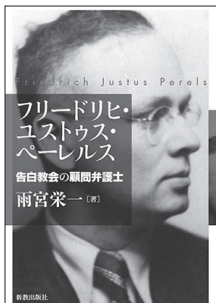
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)

http://bp-uccj.jp

教会闘争における信徒の働き

雨宮栄一 著

フリードリヒ・ユストウス・ペーレルス 告白教会の顧問弁護士



南 吉衛

ドイツ教会闘争に関する多くの著書で知られる雨宮栄一氏が新しい書物を出版された。ペーレルスは、三五歳に満たない若さで、キリストの証人としての使命に生き、殉教した信徒であった。古プロイセンの合同告白教会の顧問弁護士として、ナチ政権下の困難な状況の中で献身的に働き、逮捕された牧師・信徒のため法を最大限に生かして活動し、また獄中にある人たちに食料を届けたりした人である。著者は十年も前から、このキリスト者に関心を持ち、ベルリンに旅行した際、ペーレルスに關係する場所を訪ねている。

本書冒頭の「序に代えて」で、「レールター街におけるペーレルスの虐殺」と題して、一九四五年四月二日の出来事について、当日の天候や、壊滅的な爆撃に遭っていたベルリン市街の状況から、ペーレルスが殺されるに至るまで、詳細な経緯が劇的なまでに記されている。

ペーレルスは、才能豊かな学者を輩出した家庭に生まれ、ベルリンのギムナジウムで学んだ。その「聖書研究サークル」で彼は大きな影響を受け、健全なキリスト教信仰を得た。この

サークルは、「言葉と行為によつて主イエス・キリストを告白する福音主義教会の青年たち」から成っていた。このサークルに属する若者たちは、毎年秋にベルリン近郊、「西のペーテル」と呼ばれたローベタールにある福祉施設で労働奉仕をしていた。ここでの奉仕作業を通じて「若いペーレルスに、社会の弱者に対する関心が呼び起こされたに相違ない」と著者は述べている（四八頁）。

ギムナジウムを修了すると、ペーレルスは迷うことなく法律の学びを始めている。彼はハイデルベルク大学で二期を過ごし、さらに一九三三年三月までの六学期をベルリン大学で学ぶことになった。前年三二年は、ナチ党が第一党に躍進した時代である。この頃、ペーレルスは、マルティン・ニーメラー等の影響を受けて、ナチの「指導者原理」と「強制的同質化政策」に反対する立場を堅固なものとして行く。その立場は、彼が正規の課程を経て「司法研修生」になって行く段階で更に強められていった。著者は、「ペーレルスという人物は素朴ではあるが、確固とした信仰の持ち主であり、自覚的な信仰者であった

と思う」と記している（九一頁）。その信仰が彼の全生涯を貫いている。その後「アリア条項」が導入され、「牧師緊急同盟」が生まれる。ペーレルスは、司法研修生としての学びを続けながら、「強制的同質化」や、「ユダヤ人排除」と戦う牧師たちの為に、法的な貢献をするのである。同時に最終司法試験を終えて、正式に古プロイセンの合同告白教会の顧問弁護士となり、その働きは内外に及ぶのであった。

この頃、デイトトリツヒ・ボンヘッファーの義兄ハンス・フォン・ドーナニーとつながり、更にフィンケンヴァアルデ牧師研修所を開設する準備をしていたボンヘッファーに出会い、信頼に満ちた共同の働きが始まったのである。本書は、ペーレルスの評伝であることは言うまでもないが、同時にボンヘッファーとの關係を二人の死に至るまで丹念に追究している点に特色がある。読者は、これほど深く信頼に満ちた關係が両者にあったことに改めて驚くであろう。

二人が命をかけ、骨身を惜しまず働いた牧師研修所は、しかしながら、三五年四月、開設後二年余りで、ゲシュタポによって閉鎖されてしまう。その後、第二次世界大戦が勃発し、牧師たちの働きは「非合法」とされた。この頃ペーレルスは結婚し、家庭を持った。彼も最終的には、ボンヘッファーと同じように、教會的抵抗から脱して政治的な抵抗運動に身をおいたのであった。本書の最後に、「ペーレルスの隠れた働きに光があてられ、ボンヘッファーの死も、そしてペーレルスの死も、後のドイツにおいて十分に評価され、また生かされたと言うべきであろうか」と著者は語っている（二九〇頁）。

長い準備期間を経てドイツ教会闘争における信徒の働きに光が当てられた本書の出版を、心から喜びたい。

（みなみ・きちえ＝日本基督教団桑名教会牧師）
（四六判・三二〇頁・本体三二〇円＋税・新教出版社）

日本イエス・キリスト教団
明野キリスト教会牧師

大頭眞一 著

聖書はさらさら
一年12回で聖書を読む本

※第2弾 絶賛発売中!

◆大頭眞一牧師が「聖書は物語る」に続けて、「聖書はさらさら物語る」を刊行しました。この本の特徴は、「聖書に何が記されているか」という知識をいねいに与えてくれるところにあります。……聖書全体を見通しながら、聖書への知識を私たちに提供してくれるのです。

●A5判・一〇四頁・一、一〇〇円＋税

聖書は物語る

一年12回で聖書を読む本

正木牧人師・評（神戸ルーテル神学校校長）
◆本書の読みやすさは聖書を一続きの物語として捕らえ、一貫する世界観を提示していることにある。（『本のひろば』評より）3版準備中！
A5判・112頁・1,100円＋税

好評既刊の本

渡辺善太著作選 新書判・1,800円＋税

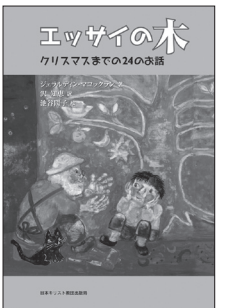
- ① 偽善者を出す処—偽善者は教會の必然的現象—
- ② 現実教會の福音的認識、他
- ③ 聖書論—聖書正典論 1/1
- ④ 聖書論—聖書正典論 2/1
- ⑤ 聖書的説教とは？
- ⑥ わかって、わからないキリスト教

齋藤孝志著 新書判・各1,000円＋税
道・真理・命 全3巻完結！
ヨハネによる福音書に徹して聴く

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
*自費出版の専門出版社*資料・星

読む者の心に彩り豊かな絵が浮かび上がる
ジェラルド・マコックラン著
沢知恵訳／池谷陽子絵

エッセイの木 クリスマスまでの24のお話



望月麻生

「『おじいさんは、まるでその場にいたかのように話すね。』男の子が言いました。」
「この羊飼いと羊をほっているあいだ、たしかにわたしは「その場」にいる。この仕事をやっていて、しあわせだなあ、恵まれているなあ、と思うよ。」

避暑地の教会で黙々と仕事に取り組む老人バターフィールドさんのもとへ突然現れた小さな男の子。バターフィールドさんが驚をふるって制作していたのは「エッセイの木」と呼ばれるキリスト教の伝統的な図柄で、四方に広がる枝には幾つものモチーフが配置されている。それらは天地創造からイエス・キリストの誕生に至るまでの物語を表した、いわば系図である。

男の子は彼の不機嫌な顔におかまいなしで話しかけ、物語をせがむ。うるさがりながら洪々と聖書の物語を語り聞かせるバターフィールドさん。あるときは男の子が時折見せる天衣無縫な言動に目を白黒させ、またあるときは熊に少年らを襲わせた預言者エリシャの短気さに自分を重ね合わせ、次第に男の子が来るのを心待ちにするようになっていた……。

本というものが興味深いのは、同じ本でも読む人によって目の前に広がる世界が違うことだ。何千冊と同じ本が印刷されて世に出ても、手に取って読む者の心の角度次第で、本と読者とは唯一無二の関係を築けるのだ。「エッセイの木」はとりわけ表情豊かな本である。物語はおもにバターフィールドさんと男の子のやりとりで展開されている。バターフィールドさんを通して語られるのは天地創造からキリストの誕生に至るまでの、聖書の物語だ。著者と訳者の紡ぐ言葉は一つ一つが刺繍の糸のようで、読む者の心に彩り豊かな絵が浮かび上がるかのようだ。

著者のマコックラン氏と訳者の沢知恵氏によって磨き上げられたこれら二四の物語の中で、私達は礼拝の説教中によくするように、わかったふりをしながら目をつぶったり、夕飯の献立を考えたりする必要はない。聖書研究祈祷会でよくするように、見栄え良い質問をしようと考えこむ必要もない。この本を読む時は、あの男の子のように、聖書の物語に思い切り身をゆだねればよい。彼は、破天荒な物語には目を丸くして驚き、踊りだすダビデと共に踊り、また、もつともらしいことを言うバター

フィールドさんには、鋭いひと言を時折無邪気に言い放つ。池谷陽子氏の挿絵も、もちろんそれだけで完成した作品であるが、読者が物語の世界を想像するのを惜しみなく助けてくれる、読者のパートナーとも言える挿絵である。聖書に関する知識、教会に通う年数、そんなものは関係なく、手ぶらのままで「まるで自分がその場にいたかのように」聖書の物語と接し、親しむことができる本だ。

私は最近、自分の仕える教会の一角に図書コーナーを設けた。教会に集う方々にお薦めしたい本を、紹介文付きでそこに並べている。本はただ背表紙を向けて整列させているだけでは勿体ないことに最近気づいたからだ。その図書コーナーは会堂へ入ってすぐの場所にあるため、礼拝の前後に何人も本を手にとって眺めている。ために「エッセイの木」も、その図書コーナーへ置き、読んでいる人たちにどう思ったかを聞いてみた。すると、実に様々な感想を聞くことができたのである。

教会学校の教師を務める方は「礼拝で子どもに聖書のお話をするときにはこう語ればいいのだと参考になった」、絵を描くのが好きな方からは「自分も『エッセイの木』を描いてみたかった」、聖書を最近読み始めた方は「分厚い旧約聖書はどこから読んでいけばイエスさまとつながるのだと思った」……聖書の物語を抜粋した本は幾つも出版されているが、ここまで多様な感想が寄せられる本もそうは無いのではないか。

教会や保育園・幼稚園の教材として十二分に活躍するであろうことは言うまでもないが、それだけでなく、人と聖書の架け橋にもなる本であることを、私は教会に集う人たちの声から感じた。かくいう私もこの本の降誕物語を参考にページエントの台本を書いたのはここだけの話である。

(もちつき・あさを「日本基督教団四街道教会牧師」)
(A5判・二五八頁・本体一八〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局)



ヨナのしるし

旧約聖書と新約聖書を結ぶもの

土岐健治
Kenji Toki



聖書理解の
パラダイムが変わる！
ヨナ書は、
先行する旧約聖書諸文書の
パロディーである！
その特徴の一つは「まじめふざけ」。

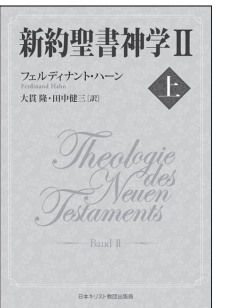
四六判
定価【本体 2,400 + 税】円
ISBN978-4-86325-077-2



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

新約各文書の内的共通性・統一性を検証する
フェルディナント・ハーン著
大貫 隆 田中健三訳

新約聖書神学Ⅱ 上



木原桂二

ドイツの新約聖書学者フェルディナント・ハーン氏による本書は「原始キリスト教神学史」を主題とする前著『新約聖書神学Ⅰ』の続編である。同書の邦訳が二〇〇六―七七年にかけて発刊されているので、本書（Ⅱ上巻）の出版を心待ちにしていた読者も多いであろう。

本書の主題は、新約聖書において明示されている「神の啓示行動」を手がかりに、新約全体の内的共通性・統一性を検証するものである。しかし今回出版された上巻には、五部構成のうち前半の三部のみが収録されているため、第四部以降を日本語で読むためには下巻の出版を待つ必要がある。

本書の内容を紹介する前に、新約聖書神学という研究分野の特質と著者の研究方法の関係について述べておきたい。「新約聖書」の二十七文書は、すべてイエスの出来事を前提にしている。しかしながら、それぞれの文書は異なる歴史的文脈と著者独自の思想によって成立・発展してきたものである。それゆえ「新約聖書」という概念は、二十七の文書が選択され、合本化された後で生じたものに過ぎない。

ブルトマンは、このような新約聖書の歴史性を重視する立場

から、その神学的統一性を論証するのは原理的に不可能であるとの主張を展開した。それに対して著者は、神学的統一性の論証は可能であるとしている。しかしながら著者は、ブルトマンの立場を全否定しているわけではない。むしろ、ブルトマン以降の議論を丁寧かつ慎重に検証した上で、自らの論証作業をその上に積み重ねている。この点については、本書の導入部にあたる「課題の設定」において詳細に説明されている。

以下、本論部分の内容を簡潔に紹介したい。

第一部は、新約聖書と旧約聖書の内的統一性が主題となっている。しかし両者の関連性は自明なものではない。その統一性は新約のキリスト教的解釈によって生じたものだからである。

著者はこの紛れもない事実を冷徹なまでに受け入れ、両者の違いを明確に検証している。だが著者は両者を切り分けることをしない。違いの明確化により、かえって旧約の神観（創造のわざを行い世界の歴史に啓示を与える神）が新約の中心の基軸になっていることが明らかになっている。旧約と新約にこの共通の基盤があるからこそ、キリスト教とユダヤ教は対等で前向きな対話ができると語る著者の主張に、評者は共感を覚える。

第二部は、啓示者としてのイエスを議論の出発点とし、聖霊論と三位一体論の構造に踏み込んだ考察を進めている。しかし著者は、教義的に論を進めるわけではない。むしろ各文書の歴史的背景や伝承史的背景を踏まえつつ、福音書から黙示録に至るまで、その神学的特徴を徹底的に洗い出している。その結果、新約諸文書における神学の多様性が浮き彫りになる。また、原始キリスト教における三位一体論は、萌芽的に内包されているという歴史的な判断が認められる。

それゆえ、この時点で読者は「聖書の内的共通性・統一性はどのようなったのか」と疑問に感じるであろう。しかし著者は、新約聖書の思想的内容の共通性があると主張しているのではない。神の啓示行為としての救いの告知と、それに対する応答行為は、あくまでも歴史的・特殊的な出来事なのである。

そこで著者は本書の第三部において、歴史的な特殊事情において生じた各文書の差異を踏まえつつ、それでもなお残された

共通性を示している。新約聖書の二十七文書には、宣教にお

いて過去の救いを現在化し、未来において生じると信じられた救いを先取りするという構造があるというのである。つまり新約聖書の読者は、どの文書を読む場合にも救いへの参与が求められることになる。著者が一貫して主張する「新約全体の内的共通性・統一性」とは、このことを指しているのである。

新約聖書の歴史性に真正面から向き合いつつ、そこに示された証言に自ら飛び込んで行こうとする著者の主張は、新約聖書神学の実践的な課題を提示するものである。ここには学問と信仰の橋渡しがあると言える。

最後に、本書を明快な日本語で読めるようにして下さった大貫隆氏と田中健三氏に、この場を借りて感謝を申し上げます。

（きはら・けいじ）日本バプテスト連盟北山バプテスト教会牧師、関西学院大学非常勤講師、神戸松蔭女子学院大学非常勤講師

（A5判・六四二頁・本体二〇〇〇円＋税、日本キリスト教団出版局）

山口勝政著

キリスト教とはなにか？

信仰を揺るぎないものにする説教

榊節夫師（ヨシユキニテイキテイキ教師、高松）

真正な聖書観に立つ牧師によって、強い確信と深い慰めを与えてくれる、何と見事な講義説教。特徴は、著者の原語の熟練した運用、聖書箇所適切な引用、明せきな識別力による正確な揺るぎのない釈義。●新書判・一〇〇〇円＋税

山口勝政の本

閉塞感からの脱却
日本宣教神学

宇田 進師・評（東京基督教大学名誉教授）

……実は、本書も、他国ではなく、まさにこの日本の教会の上にたれこめていく類似した暗雲を率直に直視しようとしている。と同時に、皆が願うそれからの脱出・脱却、そして「一歩前進」のための着眼点と今後の掘り下げの道筋とを提示している。実に33年におよぶ地方（このたびの「大震災」の隣接地域）での伝道・牧会と、地道な「宣教学」の掘り下げの中から生まれたものである。……本書は、まさに注目すべきガイドブックと言える。『本のひろば』評より）●A5判・248頁・1,800円＋税

聖書カウンセリング概説

5版新装版

●A5判・334頁・2,500円＋税

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp

〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858

*自費出版の専門出版社*資料・星

ベテラン教師の鮮やかな切り口
田中 司、高橋恵一郎、高橋貞二郎著

聖書と子どもたち みことばを届けるために



田中かおる

本書は、二〇一〇年一〇月から二〇一三年二月まで、「聖書と子どもたち」のタイトルで、「聖公会新聞」に掲載された原稿を纏めたものである。「小学校、中学校、高等学校、また幼稚園、教会学校の教師が子どもたちに聖書のメッセージを伝えるために、咀嚼したり準備するための教材がない」という現場の教師たちの声を受け、「聖公会新聞」で企画した連載を一冊の本に整えたものである。キリスト教学校に長く奉職してきた三人のベテラン教師たちが、ご自身の聖書や理科の授業、また教会学校での実践に基づいて、子どもたちに言葉を届けるための取り組みや提案を共同執筆している。筆者も牧師としてキリスト教学校に関わりをもつ一人であるが、三人の執筆者たちのほぼしる伝道への熱意が伝ってきて、心躍る思いで読了した。三人の執筆者たちの切り口が三者三様であることが、この連載を豊かなものになっている。

田中司氏は、元・立教小学校校長で、校長職以前は物理学と神学とを修めた小学校の理科教師という経歴を持つ。田中氏は、「自然科学と神学」という、ともすると対極に位置するかに思われがちな二つの視点を「聖書と自然」という切り口で、この

二つを関連づけて語る。たとえば創世記「天地創造物語」。この聖書の最初の箇所は下手をすると「聖書は非科学的！こんなこと空想にすぎない。」と聖書離れの筆頭にあげられてしまう箇所である。しかし、田中氏はこう説明する。「『ビックバン』で始まった小さな宇宙は光の速度で膨らんで、一五〇億年くらいかかって今の大きさになりました。今から五〇億年くらい前に、地球の海の中で最初の生物「単細胞生物」が誕生しました。単細胞生物はくだんだん複雑な生物へと進化し、やがて人間が誕生しました。宇宙を調べ上げた結果、科学者たちが出したこの結論は、創世記に書かれた天地創造の物語そのものように思えます。……物理学と神学を修めた田中氏ならではの解説である。

高橋恵一郎氏は、女子聖学院中学校高等学校で聖書を教えておられる。学校の保護者向けに、「いのち」を育む最少単位の共同体が家庭であるという切り口から「親に託されている使命」について語る。「主にある教育は神から親に託されたものであり、子どもを永遠の命のもと、すなわち神のもとに導く命がけの使命である」と語る恵一郎氏は、ご両親から「命がけ」

の信仰教育をうけて育ったことがご自身の原点にあるという。それ故、言葉に説得力がある！

高橋貞二郎氏は、東洋英和女学院中学部高等部で聖書を教えながら、生徒と人格的に向き合い寄り添うことの重要性、また生徒にわかる言葉で語ることの必要性を語っている。貞二郎氏は、子どもたちを取り囲む世界は「まことの光」が見えにくくなっていて、という。人間の手で作られた一時的な楽しみや慰めがあまりにも多い中、「まことの光」を指し示すために現場では工夫が必要だと指摘。その工夫の数々が具体的に提示されていて、大いに参考になる。

このように三人の切り口はそれぞれ異なっているが、「聖書は私たち人間にとって生死にかかわることがらを扱っている」という認識は、三者に共通している。恵一郎氏よれば「神に愛されている喜びと、他者に仕える幸せの道は聖書にある」とい

心をとめて 森を歩く

写真とては ●小西貴士
文 ●河邊貴子

森に心をとめてきた人（写真家 小西貴士）と子どもに心をとめてきた人（幼児教育研究者 河邊貴子）。ふたりが織りなす珠玉のフォト&エッセイ集。自然のいとなみのなかに、小さな神さまの仕事を見つけていけることができる大きな感動を秘めた小さな本。

新しい創造

著 ●太田道子

著者は聖書を読むための基本事項を分かりやすく説明し、神と人間の関係を明確にする。それはクリスチャンのみならず教会の外にも語りかけるものである。そして聖書を読むことは人が現実的に正面から向き合い、人間と社会を癒すための力となることを示す。多くの人が待望していた碩学太田道子の久々の著作。

現代思想における

イエス・キリスト

Jesus Christ in Modern Thought
著 ●アン・フアン・ペーラー
訳 ●河野 隆一

著者ジョン・マッコリー（1919-2007）は若年期にブルトマンを通してハイデガーの存在論的哲学に大きな関心を持った。このマッコリーのキリスト論が本書である。キリスト論総論を学ぶための基本的な文献の翻訳として注目される。

（たなか・かおる 日本基督教団安行教会牧師）
（四六判・一五二頁・本体一八〇〇円＋税・聖公会出版）

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
☎03(3235)5681 FAX 03(3235)5682
http://seikokai-publishing.jimdo.com
nssk-bookshop@company.email.ne.jp

新たに有益な対話の継続を願いつつ

日本カルヴィニスト協会編

カルヴァンとカルヴィニズム キリスト教と現代社会



出村 彰

本書は、一九五四年の日本カルヴィニスト協会設立から満六〇周年を記念して、同協会の手で編集・出版された多彩な論文集である。カルヴァンとその遺産が、これまで国内外の学術・文化・芸術・政治・経済にどのような影響を与えてきたのかを、協会創立当初から現在に至る論客らの講演、および論文を集成した大著であり、評者としても、古い頃の執筆者らの懐かしい氏名、書名、帰属などから始まって、いろいろな意味で個人的にも今なお多くの学恩を受けている方々の浩瀚な論考など、改めて蒙を啓かれる思いで、再読・三読に努めた次第である。編纂の労苦を多とするにやぶさかでない。

全体は、第一章「カルヴァンとカルヴィニズム」以下、「カルヴィニズムの神学者たち」、「カルヴィニズムとは何か」、「カルヴィニズムと現代」、「カルヴィニズムと芸術・文化」と続き、最終の六章には詳細な年表を付する形で組み立てられている。早くも再来年には、ルターの「九十五条提題」から数えて、いわば宗教改革五〇〇年記念を迎えるに当たっても、プロテスタントのもう一つの大きな潮流である改革派、その淵源たるカル

の現代的展開の可能性探求などいずれもが、極度に多面的で輻輳した二十一世紀に残された課題だろうことは言うまでもない。自派のアイデンティティーを深く・鋭く問い返すことと、他派との対話の必然とは決して「あれか・これか」ではないはずである。平凡すぎる事例かもしれないが、二十世紀神学の主流をなしたかのごとくだったバルトをはじめとするドイツ改革派系の「弁証法神学」、アメリカであれば同じ背景を共有するニールバー兄弟らの新正統主義などなど、対話の相手は決して少なくないだろう。本書でも、何人かの執筆者がそれを試みていることは力強い。もつと敷衍すれば、同じ福音理解に依って立つルターの継承者たちが含まれるのは無論のことであろうが、「義認の教理」理解をめぐる、すでにルター教会が「果敢にも」乗り出しているカトリック教会との対話の可能性の模索、それへの参与など、問いと課題は尽きないように思われる。

余りにも素朴な問いかもしれないが、そもそも、カルヴァン↓カルヴィニスト↓カルヴィニズムとは言いえても、一般にルター↓ルターリスト↓ルターリズムなどは、寡聞にして耳にしないのは何故なのだろうか。単なる呼称にこだわる愚かさを承知の上で、なお疑念の晴れない評者である。さらに加えて、

ヴァンとその遺産を深く・広く顧みることは、まことに意義深く思われてならない。

改めて言うまでもないが、上記日本カルヴィニスト協会の神学的・教派的背景は、日本における神学教育の拠点を神戸改革派神学校に持つ、いわゆるオランダ改革派教会である。その意味でも、第二章で特に詳述されるアブラハム・カイパーの本格的紹介は、評者にとってきわめて有益だった。評者の懐いてきた関心事、すなわち、エムデンやロンドン亡命者教会の改革指導者ヤン・アラスコ『著作全集』の編纂者として記憶するカイパーだが、教理神学、教会政治、国権から自立した自由大学の設立、さらにはオランダの国政そのものへの参画など、今では想像にさえ余るほど広汎なその業績には、ただ驚嘆あるのみである。

もつともそれだけに、カイパーが抱懐し、その後継者たち（例えば、本書でも詳述されるファン・ルーラーなど）が継承し、今なお現に日本カルヴィニスト協会が自らのレゾン・デートルとする「有神論的世界観」、それに立脚する教会形成、その可能性、否、責務もまた問題となろう。限られた事例でしかないが、四年に一度開催の国際カルヴァン学会の歩みなどを目にしつつ、評者はその趨勢を、「非プロテスタント化」「非信条化」「非教義化」〔換言すれば、原資料中心の「歴史化・文脈化」〕、ついでに言えば「非ジュネーヴ化」〔「同時多発性」への開眼〕、などと言い表してみたことがある。このように表現する必然性はないとしても、これら近年の傾向はしよせん、カルヴァンとその神学的核心までをも、本書の各所で指摘されている「近代神学化」に墮せしめるに他ならないのだろうか。評者もまた、問われている思いである。

十六世紀ジュネーヴという一都市国家在任の「協働牧会者団」の一員に徹しつつ、水平面では全欧的視野を堅持し、永遠へ向かう垂直面では終末の日を待ち続けたあのカルヴァンが、今・ここでなら何をどう語り、どのように生きるだろうかを改めて問われる思いを、いっそう深められた本編著だった。感謝をもって拙稿を閉じたい。

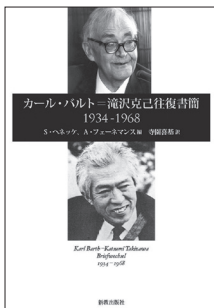
（でむら・あきら＝東北学院大学名誉教授）

（A5判・四六二頁・本体五六〇円＋税・一麦出版社）

30年以上に及ぶ希有な対話（ダイアログ）
寺園喜基訳

カール・バルトⅡ滝沢克己往復書簡

1934-1968



福嶋 揚

カール・バルトが遺したドイツ語の著作群には、まだ邦訳されていない膨大な文献があり、その中には多くの書簡も含まれている。そうした書簡の一つであり、スイスのバルト資料館に保管されていたものが、このたび寺園喜基氏によって邦訳され解説された、バルトと滝沢克己の往復書簡である。

聖書の知識を十分持たなかった非キリスト者の滝沢克己は、一九三〇年代半ば、フンボルト財団の奨学生として渡欧した。滝沢はその際、西田幾多郎自身の勧めに従ってバルトを訪ね、その後生涯にわたってバルトとの対話が続けることになった。留学生滝沢のドイツ語力が類を見ないほど突出していることに、バルトは驚嘆した。実際バルトの手紙を読めば、海外生活経験者の誰もが、その驚嘆に納得させられるだろう。もちろん滝沢の語学力は、彼自身がバルトに向かって問いかけ語りかける内実と不可分の語学力であった。

往復書簡の全体を見ると、分量的には滝沢からバルトへの手紙が多い。とはいえ、多忙極まりないバルトが、生涯にわたって異国の滝沢を気遣い、彼に著作を贈り続けたことをふまえて

ば、両者の関係は「往復」であり「対話」であったことは確かである。往復書簡は、互いへの敬意と友情に満ちていると同時に、妥協のない論争を含んでいる。

バルトのメッセージをことづけするフォン・キルシュバウム助手の書簡も収録されている。さらに滝沢の書簡に同封された資料も収録されている。とりわけ、一九三五年に滝沢がフンボルト財団あてに送った報告書が注目される。滝沢はそこで「恐らく危険を冒して——ドイツ政府が行ったバルトの罷免に對して抗議し、当時のドイツ国家社会主義の破滅的な近未来を予見しつつ、哲学的神学的な警告を述べている。」

三五年間にわたる往復書簡の中では、両者の出会いからちょうど四半世紀後の、滝沢からの受洗の報告と、それに対するバルトからの祝福が、一つの山場をなしている。とはいえ、それによって両者の対話や議論が終るわけではない。両者の論争は、バルトの側からも滝沢の側からも、完全な結論や収束には辿り着いていない。従ってそれは、いまだ解決していないキリスト教の根幹をめぐる問いとして、読者へと投げかけられるだろう。

この書簡集はまた、バルトの体系的でモノローグの形をとる単著とは異なる、彼の別の側面を伝えている。それは、バルトが異文化の他者に配慮し、旺盛な関心を寄せ、生き生きとした対話（ダイアログ）を行う人物であったということである。

バルト神学が宗教間対話や宣教を阻害したという批判が存在する。そうした問題点が、西欧のキリスト教会に深く根ざす神学者バルトにあったことは否めない。だがバルトが単にそれにとどまっていれば、その思想が西田幾多郎やその弟子滝沢に語りかけることはあり得なかつただろう。さらにまた、バルト神学が今日、現代思想の最先端を切り拓く柄谷行人氏のような非キリスト教的思想家からの深い共鳴を呼ぶこともあり得ないだろう（『現代思想』二〇一五年一月臨時増刊号を参照）。教会の源泉としての福音を求めて掘り下げるバルトの思考は、同時に教会の「壁」を透過して対話を創造する思考でもあった。バルトと滝沢の往復書簡は、まさにそのような「壁」の内外を往復

する自由な対話を伝えるものである。

二十一世紀にバルト神学という古典を読み継ぐために、さらにまたバルトと滝沢がそれぞれに固有の立場から把握して証言しようとした、大いなる福音を新たに聴き取り続けるために、この往復書簡集は重要な援助となるだろう。そのような福音の力がどれほど大きなものであったか、またバルトとの出会いがどれほど幸福なものであったか、巻末解説において寺園氏が引用した滝沢の言葉が物語っている。それは、滝沢が最後にバルトを訪問した後、帰国途上に記した言葉である。

「三十年前、先生にめぐりあったことは、私の一生にとつて何というしあわせだったろう。これからもずっとそうであるだろう。どうか先生がよくなられて、百歳までもお仕事をなさることができまますように。」

（ふくしま・とうり 青山学院大学、白百合女子大学、東京神学大学兼任講師）
（四六判・二八〇頁・本体一七〇〇円＋税・新教出版社）

キリスト新聞社の本
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.



好評発売中!

宣教における連帯と対話

関西学院大学神学部
ブックレット①

関西学院大学神学部設立125周年記念 第48回神学セミナー
二〇一四年一月に行われた第48回関西学院大学神学部神学セミナーの講演と礼拝を収録。今回の神学セミナーは、特に神学部設立125周年記念行事の環としてグローバルな広がりて今日の宣教伝道について考察。

■A5判 150頁 1500円

大切な人へのプレゼントに！ 天路歷程 天の都を目ざして

ジョン・バニヤン 作
メアリー・ゴドルフ・フレイ 再話
ロバート・ローソン 画



聖書に次ぎ、世界で最も多く読まれてる旅物語。世界中で読まれてきた不朽の名作『天路歷程』がさらに読みやすくなりました！

■B5判 116頁 1500円

キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町 15-51
和光プラザ 2階
TEL: 048-424-2067 (価格に税別)
E-Mail: support@kirishin.com
URL: http://www.kirishin.com

一麦出版社

http://www.ichibaku.co.jp/
携帯サイト mobile.ichibaku.co.jp/ Ichibaku Shuppansha Publishing Co., Ltd.



日本キリスト改革派教会
大会教育委員会
信徒の手引き

四六判 定価(本体2,200+税)円
ISBN978-4-86325-071-0

わたしたちは、聖書と時代からの問
いかけにどのように応えるか。



久野牧
教会生活の道案内

四六判 定価(本体2,000+税)円
ISBN978-4-86325-007-9

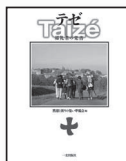
知っておきたい、あらためて考えて
みたい、わたしたちの教会生活。



ニクラウス・ペーター
大石周平訳
信仰のいろはをつづる
魂の解剖図と告白

四六判 定価(本体2,400+税)円
ISBN978-4-86235-072-7

スイスで今、最も注目を集める説教者。
現代に語りかける力に満ちた説教！



黙想と祈りの集い準備会編
テゼ
巡礼者の覚書

A5判変型 定価(本体1,800+税)円
ISBN978-4-86235-059-8

世界中の青年たちの心をとらえ続け
るテゼ。その秘密はどこに？ カラー
写真満載、プレゼントにも。

久野牧
キリスト教信仰Q&A

四六判 定価(本体1,800+税)円
ISBN978-4-86325-006-2

信仰にまつわる疑問の数々……。あ
なたの「素朴な疑問」に答えます！

ピーター・テイラー・フォーサイス
大宮溥訳
祈りのこころ

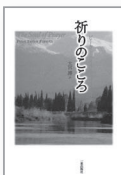
四六判 定価(本体1,800+税)円
ISBN978-4-86325-002-4

世代を超えて読み継がれているベス
トセラー。

及川信
盲人の癒し・死人の復活
ヨハネによる福音書 説教と黙想

四六判 定価(本体1,900+税)円
ISBN978-4-86325-054-3

「しるし」としての奇跡。二つの奇跡は
あなたに何を語りかけているのか。



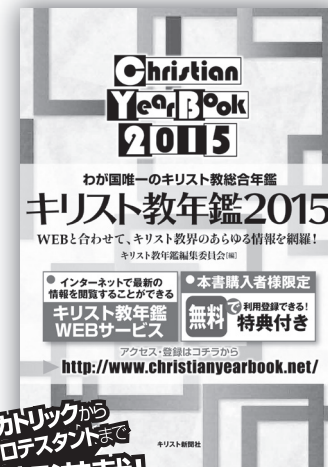
キリスト新聞社の本

ご注文は最寄りのキリスト教専門書店へ

好評発売中!

▶わが国唯一のキリスト教総合年鑑!

キリスト教年鑑 2015



カトリックから
プロテスタントまで
情報満載!

■B5判・1,274頁・本体14,000円+税

キリスト教年鑑WEBサービス
利用登録無料

『キリスト教年鑑』と
『キリスト教年鑑WEBサービス』で
知りたい情報を網羅!

アクセス・登録はコチラから

<http://www.christianyearbook.net/>

キリスト教年鑑編集委員会◎編
1948年の創刊以来通巻58巻の継続
性と新しい時代に対応した編集に努め
ています。最新のデータブックとして、あ
るいは歴史的な資料として幅広く活用
できます。2015年版をご購入いただ
いた読者様はPC上で情報を閲覧できる
会員制サイト「キリスト教年鑑WEB
サービス」の利用登録が無料でできま
す。WEB経由で最新の情報を閲覧する
ことができるようになります。



Kirishito 株式会社キリスト新聞社
Shimbun, 〒351-0114 埼玉県和光市本町 15-51 和光プラザ2階
Co., Ltd. TEL.048(424)2067 FAX.048(424)2068
E-mail, support@kirishin.com URL, http://www.kirishin.com

アクセスはこちらから▶

Kirishin.com

検索

<http://www.kirishin.com>

既刊案内 (2014年12月～2015年1月) (定価はすべて本体価格+税)

著 訳・編 者	書 名	判型	頁	本体価格	版 元	発行日
F. アワズラー著 鳥 羽 徳 子 訳	二十世紀からの贈り物 — 現代のたとえ話 2	B 6	188	1,700	教 文 館	12/15
村 岡 崇 光	私のヴィア・ドロローサ —「大東亜戦争」の爪痕をアジアに訪ねて	四六	204	1,500	〃	12/20
平 山 正 実	死と向き合って生きる —キリスト教と死生学	四六	212	1,500	〃	12/20
黒 川 知 文	日本史におけるキリスト教宣教 —宣教活動と人物を中心に	四六	478	3,000	〃	12/20
小 島 誠 志	虹 の 約 束 — 小島誠志説教集	B 6	256	1,900	〃	12/25
ジョン・テイラー著 土 岐 健 治 訳	西洋古典文学と聖書 — 歓待と承認	A 5	366	5,100	〃	12/25
W.ブルックマン著 矢 田 洋 子 訳	現代聖書注解 サムエル記下	A 5	258	5,000	日本キリスト 教 団 出版 局	12/15
四 竈 揚	この最後の者にも —福音書の語るメッセージ	四六	160	1,500	〃	12/15
呉 在 植 著 山 田 貞 夫 訳	私の人生のテーマは「現場」 —韓国教会の同時代史を生きて	四六	350	2,500	新 教 出 版 社	12/1
ホセ・イグナシオ・ロベス・ビヒル とマリア・ロベス・ビヒル著 祐 川 郁 生 訳	イエスという人の物語	A 5	1150	5,000	〃	12/25
秋 山 憲 兄 編	高 倉 徳 太 郎 日 記	四六	905	5,000	〃	12/25
寺 園 喜 基 訳	カール・バルト=滝沢克己往復書簡 — 1934 - 1968	四六	280	2,700	〃	12/25
ジャン・バニアン著 「天路歷程」翻訳委員会訳	天 路 歴 程 — 天の都を目ざして	B 5	116	1,500	キリスト新聞社	12/15
西 垣 光 代	主に望みをおいて —日本の幼児教育に貢献したアニー・ハウ	A 5	169	2,200	〃	12/25
S.R.ヘインズ、L.B.ヘイル著 船 本 弘 毅 訳	はじめてのボンヘッフアー	四六	222	1,800	教 文 館	1/31
山 北 宣 久	天 笑 人 語	四六	136	1,200	日 本 キ リ ス ト 教 団 出 版 局	1/20
山 下 智 子 文 池 谷 陽 子 絵	こひつじたちのABC —アダムからはじまる物語	A 5	130	1,400	〃	1/20
徳 永 徹	逆 境 の 恩 寵 祈りに生きた家族の物語	B6変	200	1,800	新 教 出 版 社	1/31
齋 藤 孝 志	道・真理・命 3 —ヨハネによる福音書に徹して読く(13 - 21章)	新書	304	1,000	ヨ ベ ル	1/15

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区臨3-2 様ヶ丘センタービル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3235-5681	03-3235-5682	http://seikokai-publishing.jimdo.com	nsk-bookshop@company.email.ne.jp	00140-8-50880
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://members3.com.home.ne.jp/taishindo/	taishindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		krisutokyoushotenhanna@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://www7.biglobe.ne.jp/~yldnrcs/bs/uev.html	biblehouse@bible.or.jp	00250-4-2512
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881		sksch@mva.biglobe.ne.jp	00540-6-82826
清光書店	951-8114	新潟市営所通 一番町313	025-229-0656	共用			00540-6-82826
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612		info@s-seibun.co.jp	0810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepages3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsta@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		kjordan@mbx.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		sakai-x@topaz.plala.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸中央区三宮町3-9-18三鷹ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0016	広島市中区鞆町7-28	082-228-4914	082-223-0951			01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖繩キリスト教書店	901-2131	浦添市牧港1-60-6	098-877-7283	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

新教出版社

福音と世界

2015年4月号

特集 教会と職業、そして召命

真のワーク・ライフ・バランスとは。働くことの意味を問い直す。

寄稿者 関谷直人、小山英之、梅津裕美、石井祥子、荒井眞理

新連載

レヴィナスの時間論 ……内田 樹

キリスト教美術案内 ……八木美穂子

好評連載 望月麻生、高橋優子、一色哲、秋葉陸子、佐藤優、青野太潮、月本昭男、沢知恵

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

ラディカル・ラブ クエア神学入門

パトリック・S・チェン著／工藤万里江訳

話題騒然!

あらゆる境界を打ち破る「過激な愛」としての神に関する、刺激に満ちた三一論的神学の試み。

A5判・2300円

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1
TEL : 03-3260-6148
Email: sales@shinkyoy-pb.com

編集室から

自団体の書籍で恐縮だが、過去の出版物を参考にしながら仕事をしていたときのこと、担当した「(ノアの)箱舟の大きさを想像しよう」というページがでてきた。舟の図に数字を書き込むだけのつもりが、もつとわかりやすい表現ができないものかと、考えを巡らせたことが思い出される。

誰もが知り、大きさを思い浮かべることができるとの相当させたかった。それで、探してやっと見つけたものが東大寺盧舎那仏像、別称、奈良の大仏だった。箱舟も大仏もおよそのサイズ表示なので多少の誤差は許していただきたいのだが、坐像の高さが近かったので、平面積を計算すると約20体分になった。しかし、図に表そうとイラストに取りかかり始め、大仏の頭のパンチパーマならぬ螺旋髪を描こうとしたとき、違和感に気づいて中断した。

果たして箱舟の隣に大仏20体並べることができるのか、キリスト教徒を対象とした読者に受け入れてもらえるのだろうか。

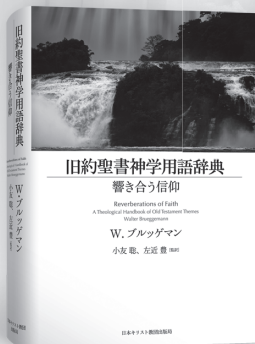
十二神将・伐折羅が切手になっているが、私が存しあげる牧師先生は使いたくないし触りたくもないぞうだ。そんなことを思い出すと、ますます自信喪失に陥ってしまう。

あきらめて他を探してみたものの、適当なものが見つからず結局もとの表現にもどってしまった。

個を見極めて用いることができれば、不謹慎が良い効果をもたらすと聞いたことがある。適切な例えでないかもしれないが、作曲家が不協和音をあえて混ぜることで、音楽全体が良くなる場合があるといったことも信憑性を感じる。

箱舟と大仏の組み合わせは異色でインパクトがある。しかし不快に思う人もいる。私は、以前よりリアルに箱舟を想像できるようにになった。広そうだが全種類の動物各二匹と暮らすのは厳しいと思ったりもした。

掲載をあきらめたことが正しかったのか、今でもわからない。それでも、探究心は大切にしたい。(吉崎)



旧約聖書神学用語辞典

響き合う信仰

W.ブルッゲマン 著 小友聡/左近豊 監訳

旧約神学の最も重要な105項目を、北米を代表する旧約学者が厳選して解説。項目が互いに響き合い、聖書信仰の深さ・力強さが迫ってくる。旧約神学を読む辞典。◆A5判 上製・530頁・6,696円

講演会 本書の魅力を語る キリスト教文化講演会のご案内

教会と旧約学はいかに手を結ぶか

北米を代表する旧約学者
W.ブルッゲマンに学ぶ

講師 左近豊 (日本基督教団美竹教会牧師)

日時 2015年4月9日(木) 午後6時～8時

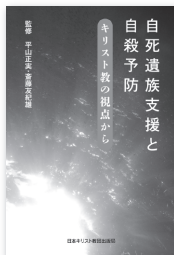
会場 教文館9階 ウェンライトホール

申込み 教文館キリスト教書部へお申してください。

FAX 03-3563-1288 E-Mail xbooks@kyobunkwan.co.jp

参加費
500円

主催 ●
教文館キリスト教書部
日本キリスト教団出版局



『信徒の友』注目連載が待望の書籍化!

自死遺族支援と自殺予防

キリスト教の視点から 平山正実/斎藤友紀雄 監修

教会、信徒はどのように自死に向き合うべきか。遺族、自殺未遂体験者の手記、支援者や専門家からの提言を収録し、「自死」を通して生きることをあらためて考える。◆四六判 並製・240頁・1,944円

ひかりをかかげて

永井隆

原爆の荒野から
世界に「平和を」

第6回
記本



片山はるひ

長崎の被爆者の救護に励んだ放射線医・永井。原爆の悲惨さや平和への願いを訴えた生涯を描く。

◆A5判 並製・130頁・1,296円

天国での再会

日本におけるキリスト教葬儀式文の
インカルチュレーション



中道基夫

インカルチュレーション(文化内開花)の視点からキリスト教死者儀礼の意味するものを問う。

◆A5判 上製・266頁・3,888円

真理は「ガラクタ」の中に

自立する君へ

●B6判・188頁・本体1,900円

大貫隆

豊かな感受性と想像力を使って聖書の「隙間」を埋めていくことで、自分と世界が新しく見えてくる！ 新約聖書の学者が真摯に伝える、「いのち」をよりよく生きるためのメッセージ。



古代キリスト教と哲学

C・ステイツド 関川泰寛、田中従子訳

起源から古代末期までのギリシア哲学の歩みを辿り、それが初期キリスト教思想の形成にどのような影響を与えたのかを解説。

●A5判・330頁・本体3,800円



ギリシア語新約聖書釈義事典 説教、聖書研究の準備に！

【全巻セット縮刷版】

H・バルツ、G・シユナイダー編
荒井猷、H・J・マルクス監修

新約聖書本文に現れる全ギリシア語語彙の文脈的・歴史的・神学的意味を解き明かす比類ない事典。教職者・神学生必携のロングセラーを小型化・軽量化し、価格も半額に！
●A5判・上製・3巻セット函入、本体**63,000円**
第I巻544頁、第II巻644頁、第III巻600頁



ユダヤ教

歴史・信仰・文化

G・シユテンベルガー A・ルスターホルツほか訳

豊かな伝統を誇るユダヤ教の特質を、ユダヤ人の生活様式と信仰から解説したユニークなガイドブック。

●四六判・224頁・本体2,100円



アツジのフランチェスコと自然

自然環境に対する西洋キリスト教的態度の伝統と革新

R・D・ソレル 金田俊郎訳

●四六判・340頁・本体2,800円

「自然を愛した聖人」の自然環境への態度に関する初の包括的な論究。フランチェスコの思想を正しく評価し、今日の生態学的な課題への基礎を提供する。

3月の新刊 (価格表示は税抜)

500部限定

一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇一五年四月一日発行 (毎月一回一日発行)
本のひろば 第六八七号 二〇一五年四月号

発行所 〒100-0044 東京都新宿区新小川町九一-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話〇三三三三〇一六五二〇 振替〇〇一七〇一五一一六七九
発行人 本村利春 編集人 中川忠 印刷所 慎平河工業社
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三三三三〇一五六七〇

定価七八円(税抜七二円)(〒62円)
一年分一三〇〇円(送料共)

キョクワ 教文館 〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! http://shop-kyobunkwan.com/

e-shop 教文館